

第一支部

第一支部報告

(1) 報告

ア. 第2回地区勉強会

(ア) 日 時：平成30年1月26日(金) 19:00～

(イ) 参加者：32人

(ウ) 内 容：

『アントンセンI法の撮影方法変更とその結果』

東川口病院 後藤 敬明

『トモシンセシスについて 装置概要と症例』

東川口病院 鎌田 靖男

『我々診療放射線技師に技師連盟は必要か?』

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会 副会長

日本診療放射線技師連盟 理事

富田 博信

イ. 第3回地区勉強会&会計報告

(ア) 日 時：平成30年3月13日(火) 19:00～

(イ) 場 所：浦和コミュニティセンター 13集会室

(ウ) 参加者：29人

(エ) 内 容：

司会 川口市立医療センター 石井 聖人

「Azurion バイプレーン装置の頭部領域における有用性」

IGT モダリティスペシャリスト 作田 啓太

「Philips MR 最新鋭アプリケーションー頭部領域を中心にー」

MR モダリティスペシャリスト 石田真美子

「脳血管内治療用デバイスの情報」

日本ストライカー 盛 寛昌

「川口市立医療センターの脳卒中の検査」

川口市立医療センター 千代岡直家



川口市立医療センター 千代岡直家



川口市立医療センター 石井聖人

第二支部

平成 29 年度 第 6 回第二支部勉強会 座長集約

上尾中央総合病院 高橋 康昭

平成 27 年 5 月に起きた群馬県の転落事故を受け、日本消化器がん検診学会から「胃 X 線検査の安全性確保の周知徹底について」という通達があった。これ以降、胃 X 線検査の安全管理の意識が各施設でより高まったともいえる。

今回のテーマは『明日から実践しよう～当院における医療安全への取り組み～』で、行田中央総合病院の浅見純一さまに多施設で行われている胃透視の安全管理について講演いただいた。上記で述べた通達内容の「胃 X 線検査安全対策の再徹底に関するお願い」に沿った取り組みであった。

逆傾斜時の取り組み方法として、検査を行う前の注意点を説明。過度な逆傾斜を避けるために圧迫布団の使用。落下防止のための手すりや肩当て使用の説明、逆傾斜前後で患者の状態を直接確認するなど。下部前壁撮影だけでもさまざまな安全確認を行うことが分かり、特に安全確認を行わなくてはならない撮影であることが改めてわかった。下部前壁撮影は逆傾斜を必要とする撮影であり、患者の安全を第一に考えるのであれば一つも欠かせないものだといえる。

またバリウム誤嚥に関しては、誤嚥しやすい顎の高さやコップの形状を実際にバリウムを服用して確かめる姿勢に、とても感銘を受けた。誤嚥時の対処法であるハフティングとスクイーピングに関しては、リハビリテーション科に講師を依頼し講習会を行うため、より実践的で技術を身に付けられ、当院でも実践していきたい内容であった。

それ以外に、検査室の構造やレイアウトの注意点、迷走神経反射発生時の対処方法など幅広くご説明いただき、とても理解しやすい内容であった。また胃 X 線検査勉強会といえば症例検討ということで 1 症例だけ検討を行い、受講者が満足する内容であった。

最後に、ご講演をいただきました浅見さまと、座長の機会を与えてくださいました埼玉県診療放射線技師会第二支部理事の大西さま、役員の皆さまに深謝致します。

平成 29 年度 第 6 回第二支部勉強会 特別講演 座長集約

三郷中央総合病院 長坂 純

平成 29 年度第 6 回第二支部勉強会の特別講演は埼玉県済生会栗橋病院の内海将人さまによる「DRL を知り線量最適化を図ろう！」の講演であった。本講演は、今年度の埼玉県診療放射線技師会公益委員会の事業の一つで、各支部ごとに DRL に関する勉強会が行われており、第二支部での講演が最後であった。

ALARA の原則を基に放射線防護の最適化を行うことは、われわれ診療放射線技師の責務であるが、DRL は診断領域の放射線防護において、最適化のための有効なツールであるとされている。DRL の基本的事項として、線量限度や線量拘束値ではないこと、適切な医療と不適切な医療との線引きをするものではないこと、DRL の値の再評価は定期的に行われること（例：年に 1 回）などが挙げられる。特に強調して話されていたことは、高い線量を用いている施設がそれを自覚し、最適化のプロセスを推進するためのツールだということであった。ただし、DRL より低い場合であっても常に最適化を意識することも重要である。

線量の評価法には測定法と算定法があるが、施設の事情に合わせて合理的に求める必要がある。線量計を有する施設は実測値を DRL と比較することになり、線量計を有しない施設は装置表示値やツールを用いた算出値を比較することになる。具体的な DRL との比較方法について、X 線単純撮影では、標準体型患者撮影時の各部位における入射表面線量を比較する。X 線 CT では標準体型患者撮影時の各部位における CTDIvol と DLP を比較する。このとき、AEC を使用している場合 10 人以上の平均を用いることが望ましいとのことであった。

DRL の目的、概要と説明から始まり、被ばくに関連する単位・用語の解説があった。この場での解説は割愛するが、DRLs、AD、DRR、入射表面線量、CTDIvol、DLP などであった。また先に話されたツールによる線量の算出方法として、NDD 法を発展させた「EPD」とモンテカルロ法を用いた「PCXMC」の二つのソフトウェアを示しながら、実際の算出方法を教えていただいた。X 線単純撮影におけるガイドンスレベルとの比較の例をいくつか示す（単位：mGy）。頭部正面：DRL 3.0、NDD 1,222、実測値 0,957、胸部正面：DRL 0.3、NDD 0,087、実測値 0,075、腰椎側面：DRL 11.0、NDD 2,646、実測値 2,130。

現在、公益委員会では、埼玉県における X 線単純撮影と CT の撮影線量調査アンケートを行っている。撮影線量の最適化に向けて施設ごとの線量を集計して提案やアドバイスなどを施設に対して行うということである。

今回の講演は医療被ばくを最適化するツールとしての DRL を詳しくお話いただき、また測定方法から運用までとても分かりやすい内容であった。多くの施設にとって自施設の線量を見直すよききっかけになるのではないかと思う。しっかりと管理・最適化された上で日々の業務を行っていくことの大切さを改めて感じた。

第三支部

第三支部だより



第三支部理事 山岸 正和

【報告事項】

1. 第5回役員会

日 時：平成30年1月18日（木）19：00～20：30

会 場：埼玉医科大学国際医療センター 核医学検査室

参加者：7人

内 容：新年会、第3回勉強会・総会について

2. 第三支部新年会

日 時：平成30年1月27日（土）

会 場：川越エルミタージュ

参加者：39人



3. 第6回役員会

日 時：平成30年3月7日（水）19：00～20：30

会 場：埼玉医科大学国際医療センター 核医学検査室

参加者：7人

内 容：第3回勉強会・総会、平成30年度役員について

4. 平成29年度総会

日 時：平成30年3月16日（金）19：00～

会 場：ウエスタ川越 会議室1

総会参加：29人、委任状提出：156人にて総会成立

内 容：平成29年度事業報告、決算報告

平成30年度事業計画、予算案など

5. 第3回勉強会

日 時：平成30年3月16日（金） 19：30～20：30

会 場：ウエスタ川越 会議室1

参加人数：29人

内 容：【メーカー講演】

コニカミノルタ画像処理エンジン「REALISM」の紹介

コニカミノルタジャパン株式会社 営業統括部営業推進部 X線営業部 村岡 丈到 氏

【技師講演】

散乱線補正処理技術の活用法

埼玉医科大学病院 中央放射線部 堀切 直也 氏

第三支部の活動詳細は、ホームページ <http://saitama3shibu.jimdo.com/> をご覧ください。

第四支部

支部合同勉強会開催報告

第四支部 齋藤 幸夫・萩原 貴之

齋藤：はぎちゃん、原稿は？

萩原：すみません。もう少し待ってください

そんな訳で遅くなりましたが、昨年度の合同勉強会レポートです。

平成 29 年 11 月 18 日（土）ホテルヘリテイジ四季の湯温泉で、「平成 29 年度支部合同勉強会 in くまがや」が開催されました。内容は以下の通りでした。

支部合同症例検討会

「読影力アップでスキルアップ」

- | | | | |
|--------------------------------|------|-----------------|--------|
| ・小児疾患～頭部外傷～ | 第一支部 | 済生会川口総合病院 | 戸澤 僚太 |
| ・破裂動脈瘤における Coiling 術 | 第二支部 | イムス三芳総合病院 | 高田 博邦 |
| ・「読影力アップでスキルアップ」外傷初期診療～ IVR まで | 第三支部 | 埼玉医科大学総合医療センター | 小濱 大 |
| ・あなたは気づきますか？～乳がんのサイン～ | 第四支部 | 熊谷総合病院 | 亀山 枝里 |
| ・急性腹症 ～虫垂炎をマスターしてスキルアップ～ | 第五支部 | 越谷市立病院 | 村本 圭祐 |
| ・肝細胞癌 肝切除における手術支援画像を作ってみよう | 第六支部 | 彩の国東大宮メディカルセンター | 小野寺 将真 |

講演

- | | | |
|-------------------------------------|----------|-------|
| 「被ばく低減施設認定～認定前と認定後の職員の意識～」 | 三郷中央総合病院 | 長坂 純 |
| 「医療被ばく低減施設 認定前と認定後の職員の意識変化」 | 小川赤十字病院 | 高井 太市 |
| 「線量管理ツールの一例（CT 編）と実践～ドーズウォッチの使用経験～」 | 上尾中央総合病院 | 内田 瑛基 |
| 「埼玉版 DRL のアンケート調査と今後」 | 済生会栗橋病院 | 内海 将人 |

特別講演

- | | | |
|------------------------|----------------|------|
| 「若いうちに身につけておきたいデザイン思考」 | 埼玉医科大学総合医療センター | 中根 淳 |
|------------------------|----------------|------|

会場では白熱した質疑応答となり、活気ある勉強会となりました。その後の懇親会でも支部や世代を越えた交流がみられ、有意義な時間となりました。今後も会員の皆さまが参加しやすく、興味ある内容を提供できるよう努めてまいります。最後に実行委員の方々、ご協力いただいたメーカーの方々、大変お疲れ様でした。



支部合同勉強会実行委員の皆さま



演者の皆さま



懇親会風景

行田健康フォーラム 参加報告

第四支部 齋藤 幸夫・萩原 貴之

平成 29 年 12 月 3 日（日）、行田市教育文化センター「みらい」で、『健康フォーラム 2017』が行われました。当日は天気にも恵まれ、大勢の方々と賑わいを見せました。

ステージ上では、スペシャルトーク「命の授業」と題して、ゴルゴ松本氏の特別講演が行われました。テレビで見るイメージの通り、愉快的トークやパフォーマンスで会場は笑いの渦に包まれました。また「言葉」の大切さについて熱く語っていただきました。

第四支部会としては『あなたのための医療画像展』として「パネル展示」「骨密度測定」「被ばく相談」を企画しました。

特に、骨密度測定では、多くの方々に質問をいただき関心の高さが伺えました。

行田市の健康まつりに参加させていただくのは今回で 2 回目となります。前回よりもさらに多くの方々に参加していただくことができました。これからもこのような活動を通じてわれわれ診療放射線技師の職種・役割を知っていただき、多くの方の健康維持のお手伝いできればと思います。

最後に、実行委員の方々、大変お疲れさまでした。



行田健康フォーラム 2017 実行委員

会員名	施設名	会員名	施設名
齋藤 幸夫	深谷赤十字病院	清水 浩和	熊谷総合病院
大野 渉	羽生総合病院	長谷川英治	羽生総合病院
新井 偉生	東松山市民病院	横田 文克	秩父市立病院
高井 太一	小川赤十字病院	柏瀬 義倫	深谷赤十字病院
浅見 純一	行田中央総合病院	萩原 貴之	行田中央総合病院

萩元孝氏 埼玉県公衆衛生知事表彰を祝う会 報告

第四支部 萩原 貴之

平成 30 年 2 月 10 日（土）熊谷市のマロウドイン熊谷で、萩元孝氏の埼玉県公衆衛生知事表彰祝う会が行われ、萩元氏と関わりの深い多くの方々が出席されました。多くの方々のご祝辞、萩元氏ご本人のあいさつ、花束贈呈などが行われました。ご祝辞のスピーチでは、数々のエピソードが飛び出し大いに盛り上がりました。萩元氏の人柄が表れた賑やかで笑顔の溢れた祝賀会となりました。

萩元氏の表彰は同支部会員の喜びでもあります。このたびは誠におめでとうございます。



表彰状と萩元氏



萩元氏と東松山市民病院放射線科の皆さま



乾杯



花束贈呈



スピーチで盛り上がり



笑顔が溢れています

第五支部



第五支部

情報交換会

場所 春日部市民活動センター〔ふれあいキューブ〕

5月24日 19:00～(予定)

6月28日 19:00～(予定)

詳しくは、SARTのHPなどのご案内致します。

(気軽にご来場していただいてご意見などお伺いできれば幸いです)

テーマなど皆さんのご意見をお待ちしています。

ご参加ご協力をお願い致します。



五支部理事 矢崎 (i-yazaki@sart.jp)



今年度もよろしくお願ひいたします。

(新しいイベントもご用意する予定でいます。ご期待ください)

情報交換会以外でもご意見ご提案があれば気軽にご連絡ください

地区の活動にご協力いただける方からのご連絡お待ちしております。

下記でもご案内をしております。

<http://sart-daigoshibu.jimdo.com/>



第六支部

埼玉県診療放射線技師会

第六支部

1. 巻頭言
2. 平成 29 年度定期総会報告
3. 平成 29 年度第 3 回定期講習会報告
4. 役員退任挨拶

巻頭言

待たされる身の気持ち

指扇病院 安川 紘平

昨年を振り返ると、個人的には何かと病院に行く機会が多い年であった。もともと病院にかかることが嫌いで、病院を受診するときには症状もそれなりに悪化していることが多い。昨年も待合室でいつ呼ばれるかも分からない中、激痛をじっと耐え忍んでいた。病院嫌いの一番の理由は、きっと『待ち時間』なのかと思う。今でこそ診察室の扉の上に、待ち時間が案内された掲示板が設置されている施設も多くなったが、それでも、症状がでる→病院に行く→診察→検査→治療・処方→会計と一連の流れの中で、待つことに費やされる時間はかなりの割合を占めていると感じる。そんな“待つ”ことが嫌いな自分であるが、この時に比べればたいしたことではない、と感じた出来事がある。

今から2年くらい前になるが、父が突然、救急車で運ばれることとなった。いろいろな事情が重なり、結果として自分が勤める病院に運ばれたため検査に立ち会ったのだが、このときのMRIの画像が出るまでの残り数秒ですら、とてつもなく長い時間を感じたことを覚えている。その後、大学病院に転院搬送され、緊急手術を受けることとなったが、その時もまた、ただ待つことを強いられた。そんな中、頭のなかを不安…疑念…疑心…後悔…ネガティブなことがいくつも、そして何度も繰り返しよぎり、今までに経験したことのない苦痛を味わった。

技師は、普段の業務ではあまり家族の苦痛を知る機会が少ないのではないかと思う。自分は父の出来事が考えさせられるきっかけとなった。家族の立場に立った時の、待たされる体感時間の違いも痛感させられた。そして救急・急患患者の対応への意識は明らかに変化したと思う。しかし、こんなことは一個人がどんなに頑張っても小さな事と感じることもある。

昔は自分だけが一つ秀でた存在になることが理想と思っていた。上司に「お前がいなくて検査が回らなくて大変だよ」なんて言葉は、最高の誉め言葉と感じていた。でも、本当に病院に必要な人材は、『自分がいなくなっても変わらない』病院をつくることができ、『自分がいることで病院が変わっていい』存在なのではないだろうか…。

もし、自分の子供が救急車で運ばれようとしているとき、自施設に連れてきてもらいたいと言える技師さんはどれだけいるのだろうか…と興味を持った出来事でした。

平成 29 年度

埼玉県診療放射線技師会第六支部定期総会報告

去る 3 月 8 日（木）に、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会第六支部定期総会が無事終了致しました。お忙しい中、多くの出席者および委任状提出いただきありがとうございました。

平成 30 年度も、会員の皆さまにご協力いただき、新しい役員体制となり、会員の皆さまにはご協力とともにご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

平成 29 年度 埼玉県診療放射線技師会第六支部 総会議事録

1. 日時 平成 30 年 3 月 8 日（木）
19 時 00 分～19 時 30 分

2. 場所 地域医療教育センター

3. 会員数 283 人

4. 出席者 38 人
委任状提出者 163 人
合計 201 人

5. 開会

6. 会長挨拶

7. 議長選出・書記任命

議長に上尾中央総合病院 藤巻武義氏、書記に彩の国東大宮メディカルセンター 石坂紗也加氏、上尾中央総合病院 中山勝雅氏が選出された。

8. 議事事項

- ・ 平成 29 年度事業報告
- ・ 平成 29 年度決算報告
- ・ 監査報告
 - 事業監査報告
 - 会計監査報告
- ・ 平成 30 年度事業計画案
- ・ 平成 30 年度予算案
- ・ その他

9. 議事の経過

総会出席者数の審査の結果、本総会は成立したことが、報告された。

平成 29 年度事業報告を山口会長が報告。

平成 29 年度決算報告を徳田会計が報告。

監査報告は羽田野和仁氏、尾形智幸氏により、事業の適正が報告された。また収支共に会務・事業に対し健全に行われていると認める旨を報告された。

議長は議事について順次に賛否を諮り、賛成多数により全議事について承認された。

平成 30 年度事業案を山口会長が説明。

平成 30 年度予算案を徳田会計が説明。

議長は議事について順次に賛否を諮り、賛成多数により全議事について承認された。

10. 閉会

以上の通り議事が進行されたことを報告致します。

平成 30 年 3 月 8 日（木）

第六支部理事 山口 明

平成 29 年度

第六支部 第 3 回定期講習会開催報告

上尾中央総合病院 仲西一真

平成 30 年 3 月 8 日（木）に、地域医療教育センターで今年度最後となる第六支部定期講習会が開催された。今回の講習会のテーマは「発表スライドの作り方」として、済生会川口総合病院の森一也さまと、上尾中央総合病院の佐々木健さまにご講演いただいた。

講演の内容は、森さまからは学術発表について、佐々木さまからは講演について、基本的なスライド構成の説明から、演者ご自身がスライドを作成する際に注意している点や、上手に情報を伝えるためのコツなど、普段、なかなか聞くことのできない貴重なものであった。

講習会の参加者は 41 人で、雨天にもかかわらず多くの参加があった。参加者の中には、先日行われた埼玉県診療放射線技師学術大会で発表された方も多く、質疑応答では、学術大会に向けてのスライドを作成した際に、構成について悩んだ点についてなど、多くの質問が上がり、非常に有意義な講習会であったと感じられた。

第六支部 役員退任挨拶

・さいたま赤十字病院 徳田 光希

3 年間第六支部の会計を務めさせていただきました。任期中は定期講習会や支部合同勉強会、いきいきフェスティバルなどでたくさんの方々と接する機会がありました。また支部合同勉強会・関東甲信越診療放射線技師学術大会の実行委員を務め、とても貴重な経験をさせていただきました。至らないことばかりでご迷惑をお掛けしましたが、フォローしていただいた役員の方々には大変お世話になりました。これからは、第六支部の発展に一会員として貢献していきたいと思っております。ありがとうございました。

・埼玉県立小児医療センター 春日 沙織

埼玉県立小児医療センターの春日です。3 月をもちまして、第六支部役員を退任させていただくこととなりました。2 年間、学術担当として講習会の企画・運営等を行い、日常の業務だけでは学ぶことのできない多くの経験をさせていただきました。また役員活動を通じて他施設の方々との交流もでき、とても有意義な時間であったと感じています。会長をはじめ、役員の皆様には大変お世話になりました。今後も一会員として、第六支部の活動に積極的に参加し、第六支部を盛り上げていければと思います。2 年間ありがとうございました。

・上尾中央総合病院 藤巻 武義

4年間にわたり、第六支部役員を務めさせて頂いた上尾中央総合病院の藤巻です。山口会長をはじめ、他役員の協力もあり学術・広報・総務とさまざまなことを経験させていただきました。診療放射線技師として、また社会人として成長させて頂いたことに感謝致します。

これからは、会員として第六支部に引き続き携わっていきたいと思います。